

てその女の處女なる証跡あらざる時、その女をこれに父の家の門を賣り、だし、その邑の八ヶ石をもて、それを撃つ。すべし、其の父の家の家か、て淫ある事をなして、イスマエルの中、お惡を告げなひたり、汝とも、おれ、欺して、惡事をイスマエルの中より、除くべし、處女なる婦人、すて、お、夫に、適の、約を、なせる、後、ある、男、これに、邑の、内に、遇て、これを、犯さ、ば、汝ら、その、二人を、邑の、門に、與ひ、だし、石を、もて、これを、撃つ、すべし、是、その、女の、内、に、あり、なり、なら、叫ぶ、こと、を、せざる、に、因り、また、その、隣の、妻を、辱め、たる、に、因、て、なり、汝、の、く、惡事を、汝ら、の中より、除くべし、然、る、男、も、し、人、お、適の、約を、な、さ、し、女、に、野に、遇ひ、て、これを、強て、犯す、わ、ら、ん、を、犯、さ、し、男、の、み、を、釋す、べし、う、け、女、お、之、何、をも、爲、べ、か、ら、ず、女、お、之、死、に、お、た、る、罪、な、し、人、ら、が、隣、人、に、起、か、ひ、て、これ、を、釋、せ、る、ど、の、事、か、な、し、其、の、男、野、お、て、これ、に、遇、た、る、が、故、お、の、人、に、適の、約を、な、さ、し、女、を、請、ひ、た、れ、お、も、振、入、者、な、か、り、し、なり、男、も、し、未、だ、人、に、適の、約を、な、さ、し、ら、處、女、な、る、婦、に、遇、ひ、て、これを、強、へ、て、犯、す、あり、て、その、二、人、見、あ、ら、だ、さ、き、な、ら、ば、これを、犯、せ、る、男、の、女、の、父、に、銀、五、十、シケル、を、與、へ、て、之、を、己、の、妻、と、す、べし、彼、其、女、を、辱、し、め、た、れ、一、生、を、去、べ、か、ら、ざる、なり、人、の、父、の、妻、を、娶、る、べ、か、ら、ず、その、父、の、敵、を、擲、開、べ、か、ら、ず

一、外、胃、を、傷、な、ひ、た、る、者、又、た、り、玉、莖、を、切、り、た、る、者、ハ、エ、ホ、バ、の、會、に、入、べ、か、ら、ず、私、子、之、エ、ホ、バ、の、會、に、在、る、べ、か、ら、ず、是、ハ、十、代、ま、で、も、エ、ホ、バ、の、會、に、在、る、べ、か、ら、ざる、なり、ア、ン、モ、ン、人、お、よ、び、エ、ホ、バ、の、會、に、入、る、可、ら、ず、彼、ら、ハ、十、代、ま、で、も、何、時、ま、で、も、エ、ホ、バ、の、會、に、在、る、べ、か、ら、ざる、なり、是、汝、ら、の、エ、ホ、バ、の、會、に、出、きた、り、し、時、に、彼、ら、ハ、バ、ン、ど、水、を、も、て、汝、ら、を、途、に、迎、入、す、メ、ソ、フ、タ、ミ、ア、の、ペ、オ、ル、人、お、オ、ル、の、子、

ノ 聖三十七 廿五章一節
 ヲ 聖三十八 廿五章二節
 ヲ 聖三十九 廿五章三節
 ヲ 聖四十 廿五章四節
 ヲ 聖四十一 廿五章五節
 ヲ 聖四十二 廿五章六節
 ヲ 聖四十三 廿五章七節
 ヲ 聖四十四 廿五章八節
 ヲ 聖四十五 廿五章九節
 ヲ 聖四十六 廿五章十節
 ヲ 聖四十七 廿五章十一節
 ヲ 聖四十八 廿五章十二節
 ヲ 聖四十九 廿五章十三節
 ヲ 聖五十 廿五章十四節
 ヲ 聖五十一 廿五章十五節
 ヲ 聖五十二 廿五章十六節
 ヲ 聖五十三 廿五章十七節
 ヲ 聖五十四 廿五章十八節
 ヲ 聖五十五 廿五章十九節
 ヲ 聖五十六 廿五章二十節
 ヲ 聖五十七 廿五章二十一節
 ヲ 聖五十八 廿五章二十二節
 ヲ 聖五十九 廿五章二十三節
 ヲ 聖六十 廿五章二十四節
 ヲ 聖六十一 廿五章二十五節
 ヲ 聖六十二 廿五章二十六節
 ヲ 聖六十三 廿五章二十七節
 ヲ 聖六十四 廿五章二十八節
 ヲ 聖六十五 廿五章二十九節
 ヲ 聖六十六 廿五章三十節
 ヲ 聖六十七 廿五章三十一節
 ヲ 聖六十八 廿五章三十二節
 ヲ 聖六十九 廿五章三十三節
 ヲ 聖七十 廿五章三十四節
 ヲ 聖七十一 廿五章三十五節
 ヲ 聖七十二 廿五章三十六節
 ヲ 聖七十三 廿五章三十七節
 ヲ 聖七十四 廿五章三十八節
 ヲ 聖七十五 廿五章三十九節
 ヲ 聖七十六 廿五章四十節
 ヲ 聖七十七 廿五章四十一節
 ヲ 聖七十八 廿五章四十二節
 ヲ 聖七十九 廿五章四十三節
 ヲ 聖八十 廿五章四十四節
 ヲ 聖八十一 廿五章四十五節
 ヲ 聖八十二 廿五章四十六節
 ヲ 聖八十三 廿五章四十七節
 ヲ 聖八十四 廿五章四十八節
 ヲ 聖八十五 廿五章四十九節
 ヲ 聖八十六 廿五章五十節
 ヲ 聖八十七 廿五章五十一節
 ヲ 聖八十八 廿五章五十二節
 ヲ 聖八十九 廿五章五十三節
 ヲ 聖九十 廿五章五十四節
 ヲ 聖九十一 廿五章五十五節
 ヲ 聖九十二 廿五章五十六節
 ヲ 聖九十三 廿五章五十七節
 ヲ 聖九十四 廿五章五十八節
 ヲ 聖九十五 廿五章五十九節
 ヲ 聖九十六 廿五章六十節
 ヲ 聖九十七 廿五章六十一節
 ヲ 聖九十八 廿五章六十二節
 ヲ 聖九十九 廿五章六十三節
 ヲ 聖百 廿五章六十四節

バラヤを借ひて汝を誦せんと爲られたなり、然れども汝の神エホバに、巴拉ヤに聽てを爲給はず、汝の神エホバ、その呪詛を變て汝のために祝福となしたまへり、是汝の神エホバ、汝を愛したまふが故なり、汝一生のついでも、彼らのため、お、本、安、をも、ま、た、福、祿、をも、求、む、べ、か、ら、ず、汝、エ、ホ、バ、人、を、惡、べ、か、ら、ず、是、汝、の、兄、弟、な、れ、だ、なり、ま、た、エ、ホ、バ、人、を、惡、む、べ、か、ら、ず、汝、も、これ、が、國、を、お、客、た、り、し、て、有、だ、な、り、彼、等、の、生、た、る、子、等、ハ、三、代、に、お、よ、び、エ、ホ、バ、の、會、に、入、る、可、ら、ざる、べ、し、汝、軍、旅、を、出、し、て、汝、の、敵、を、攻、め、る、時、に、諸、の、惡、き、事、を、自、ら、謹、む、べ、し、汝、ら、の、中、間、お、も、し、夜、中、計、す、も、汚、穢、お、ふ、れ、て、身、の、潔、か、ら、ざる、人、お、ら、ば、陣、營、の、外、お、つ、べ、し、陣、營、の、内、お、入、る、べ、し、而、し、て、薄、暮、に、水、を、も、て、身、を、洗、ひ、日、の、入、て、後、陣、營、に、入、べ、し、汝、陣、營、の、外、に、一、箇、の、處、を、設、け、を、き、便、する、時、に、其、處、お、往、べ、し、ま、た、器、具、の、中、に、小、鏡、を、備、へ、お、き、外、お、出、て、便、する、時、に、これ、をも、て、土、を、掘、り、身、を、返、し、て、の、汝、より、出、た、る、物、を、蓋、ふ、べ、し、其、ハ、汝、の、神、エ、ホ、バ、が、汝、を、救、ひ、汝、の、敵、を、汝、に、付、さ、ん、と、て、汝、の、陣、營、の、中、お、歩、き、ま、へ、た、か、り、是、を、も、て、汝、の、陣、營、を、聖、潔、す、べ、し、然、せ、ば、汝、の、中、に、汚、穢、物、あ、る、を、見、て、汝、を、離、れ、た、ま、ふ、と、有、さ、る、べ、し、汝、の、主、人、を、避、て、汝、の、計、に、逃、さ、た、る、僕、を、汝、の、主、人、お、察、す、べ、か、ら、ず、汝、の、者、を、ま、て、汝、ら、の、中、に、汝、ど、く、も、に、居、め、汝、の、一、の、邑、の、中、に、て、之、が、善、と、見、て、擇、公、處、お、住、し、む、べ、し、之、を、虐、遇、べ、か、ら、ず、イ、ス、ラ、エ、ル、の、女、子、の、中、に、娼、妓、あ、る、べ、ら、す、イ、ス、ラ、エ、ル、の、男、子、の、中、に、男、娼、あ、る、べ、か、ら、ず、娼、妓、の、得、た、る、價、お、よ、び、狗、の、價、を、汝、の、神、エ、ホ、バ、の、家、に、攜、へ、い、り、て、何、の、誓、願、に、も、用、う、る、べ、ら、す、是、等、ハ、ど、も、お、汝、の、神、エ、ホ、バ、の、憎、み、た、ま、さ、ず、者、な、れ、ば、亦、り、汝、の、兄、弟、より、利、息、を、取、べ、し、即、ち、金、の、利、息、食、物、の、利、息、な、ら、ば、凡、て、利、息、を、生、ず、べ、き、物、の、利、息、を、取、べ、か、ら、ず、他、國、の、人、より、汝、の、利、息、を、取、る、も、宜、し、惟、汝、の、兄、弟、より、利、息、を、取、べ、か、ら、ず、然、ら、ば、汝、が、往、て、獲、て、こ、の、地、お、あ、い、て、汝、の、神、エ、ホ、バ、凡、て、汝、が、手、お、爲、す、こ、の、事、に、福、祿、を、く、だ、

ノ 聖六十一 廿五章六十五節
 ヲ 聖六十二 廿五章六十六節
 ヲ 聖六十三 廿五章六十七節
 ヲ 聖六十四 廿五章六十八節
 ヲ 聖六十五 廿五章六十九節
 ヲ 聖六十六 廿五章七十節
 ヲ 聖六十七 廿五章七十一節
 ヲ 聖六十八 廿五章七十二節
 ヲ 聖六十九 廿五章七十三節
 ヲ 聖七十 廿五章七十四節
 ヲ 聖七十一 廿五章七十五節
 ヲ 聖七十二 廿五章七十六節
 ヲ 聖七十三 廿五章七十七節
 ヲ 聖七十四 廿五章七十八節
 ヲ 聖七十五 廿五章七十九節
 ヲ 聖七十六 廿五章八十節
 ヲ 聖七十七 廿五章八十一節
 ヲ 聖七十八 廿五章八十二節
 ヲ 聖七十九 廿五章八十三節
 ヲ 聖八十 廿五章八十四節
 ヲ 聖八十一 廿五章八十五節
 ヲ 聖八十二 廿五章八十六節
 ヲ 聖八十三 廿五章八十七節
 ヲ 聖八十四 廿五章八十八節
 ヲ 聖八十五 廿五章八十九節
 ヲ 聖八十六 廿五章九十節
 ヲ 聖八十七 廿五章九十一節
 ヲ 聖八十八 廿五章九十二節
 ヲ 聖八十九 廿五章九十三節
 ヲ 聖九十 廿五章九十四節
 ヲ 聖九十一 廿五章九十五節
 ヲ 聖九十二 廿五章九十六節
 ヲ 聖九十三 廿五章九十七節
 ヲ 聖九十四 廿五章九十八節
 ヲ 聖九十五 廿五章九十九節
 ヲ 聖九十六 廿五章百節
 ヲ 聖九十七 廿五章百一節
 ヲ 聖九十八 廿五章百二節
 ヲ 聖九十九 廿五章百三節
 ヲ 聖百 廿五章百四節

汝の兄弟を履め履わいたらん。○ 禮物を履す牛に口籠をかく可らず。○ 兄弟どもに居んにその中
 の一人死て子を遺さざる間、その死たる者の妻いで、他人を嫁ぐべからず。其の夫の死に居りて
 れを娶りて妻とあし、斯してその夫の兄弟たる道をこれに盡し、而してその婦の生とて、その初子を
 の死たる兄弟の後に嗣を嗣ふべし。○ 然らば、その名をイスラエルの中に絶えらるべし。○ 然らば、
 れの中に與ることを肯せず。吾夫の兄弟たる道を盡すことをせよ。○ 然らば、その長老等かれを呼よ
 せて諭すべし。然るも彼固く執て我にこれを娶ることを好まず。○ 言べし、その兄弟の妻長老等の前にて彼
 の側にいたり、夫が鞋を穿て、その面に唾して答へて言べし、その兄弟の家を興ることを肯せざる者
 に、其の初めに、その名はイスラエルに絶えらるべし。○ 然らば、その名はイスラエルの中に絶えらるべし。
 二人の争ふ時、一人の者の妻の夫を撃つ者、其の手より夫を救へんとて進み、手より手を仰てその人
 の陰所を執らば、汝その婦の手を切らんとすべし。○ 汝の妻を憐れみ視るべからず。○ 汝の妻の中、一箇
 の大く一箇の小き二種の權衡をいれ、かくべからず。○ 汝の家に一箇の大く一箇の小き二種の升斗をかく
 べからず。○ 唯一分ある公正き權衡を有べくま、十分ある公正き升斗を有べし。○ 然らば、汝の神エホバの汝に
 たせ、地に汝の目永からん。○ 凡て斯る事をなす者、凡て正しからざる事をなす者、其の汝の神エホバに憎
 むたまふべし。○ 汝がエホバより出きたりし時、その路を歩いて、アムレクが汝に爲たりし事を記憶よ
 べ。○ 即ち彼ら、汝を途に連入、汝の疲れ倦たるに乘じて、汝の後ある弱者、者を攻撃り、斯かれら、神を畏れざ
 りき。○ 然らば、汝の神エホバの汝を興へて、産業と爲し、汝を天に下より塗抹て之を息ぼゆる者なから
 ざるべし。

ノ申命記第二十五章
 一節 申命記第二十五章
 二節 申命記第二十五章
 三節 申命記第二十五章
 四節 申命記第二十五章
 五節 申命記第二十五章
 六節 申命記第二十五章
 七節 申命記第二十五章
 八節 申命記第二十五章
 九節 申命記第二十五章
 十節 申命記第二十五章
 十一節 申命記第二十五章
 十二節 申命記第二十五章
 十三節 申命記第二十五章
 十四節 申命記第二十五章
 十五節 申命記第二十五章
 十六節 申命記第二十五章
 十七節 申命記第二十五章
 十八節 申命記第二十五章
 十九節 申命記第二十五章
 二十節 申命記第二十五章
 二十一節 申命記第二十五章
 二十二節 申命記第二十五章
 二十三節 申命記第二十五章
 二十四節 申命記第二十五章
 二十五節 申命記第二十五章
 二十六節 申命記第二十五章
 二十七節 申命記第二十五章
 二十八節 申命記第二十五章
 二十九節 申命記第二十五章
 三十節 申命記第二十五章

汝の神エホバの汝を興へて、産業となさしめたまふ地に、これを獲て、そこに住に
 たらむ。○ 汝の神エホバの汝に與へたまへる地、諸の土産の初を、汝の神エホバの汝の手に
 神エホバに申さん。我はエホバが我らに與へんと、我らの先祖等に誓ひたまひし地に、至れり。○ 然らば、祭
 司の汝の手より、汝の神エホバの壇の女へおを置べし。○ 汝また、汝の神エホバに前陳て言
 べし。我先祖は、然らば一人のオリブ人なりし。○ 僅少の人を將てエホバに下り、ゆきて其處を寄寓せり。○
 此にて、終に大にして、強く人口おはき、民となれり。○ 然らば、エホバに我らを加へ、我らに幸き力
 我を我らお負せたり。○ 因て我先祖等の神エホバに向ひて呼べり。○ 我らに我らの聲を聞き、我
 らの艱難と勞苦と、虐遇を顧みたまひ。○ 而してエホバ、強き手を出し、腕を伸べ、大なる威嚇と、徴と、奇跡とを
 もてエホバより我らを導き、いだし、この處に我らを携へり。○ 此の地すば、乳と蜜と、汝の流るる地を
 我らお賜へり。○ エホバよ、我らに我らに賜ひし地の産物の初を、持きたれり。○ 斯くして、汝の神エホバの家に降
 神エホバの前に、今汝の神エホバの前に、拜禮をなすべし。○ 而して、汝は、汝の神エホバの汝と、汝の家に降
 したまへる諸の善事の、ために、レビ人および、汝の中間なる客旅と、ともに、樂べし。○ 第三年す、あまたしに、一を
 取の年お汝の諸の産物の、什一を、取り、レビ人と、客旅と、孤子と、寡婦と、に、これを興へて、汝の門の内、お食ひ、飽
 めたる間、汝の神エホバの、前、お言べし。我は、聖物を、家より、執り、だし、また、レビ人と、客旅と、孤子と、寡婦と、

ノ申命記第二十五章
 一節 申命記第二十五章
 二節 申命記第二十五章
 三節 申命記第二十五章
 四節 申命記第二十五章
 五節 申命記第二十五章
 六節 申命記第二十五章
 七節 申命記第二十五章
 八節 申命記第二十五章
 九節 申命記第二十五章
 十節 申命記第二十五章
 十一節 申命記第二十五章
 十二節 申命記第二十五章
 十三節 申命記第二十五章
 十四節 申命記第二十五章
 十五節 申命記第二十五章
 十六節 申命記第二十五章
 十七節 申命記第二十五章
 十八節 申命記第二十五章
 十九節 申命記第二十五章
 二十節 申命記第二十五章
 二十一節 申命記第二十五章
 二十二節 申命記第二十五章
 二十三節 申命記第二十五章
 二十四節 申命記第二十五章
 二十五節 申命記第二十五章
 二十六節 申命記第二十五章
 二十七節 申命記第二十五章
 二十八節 申命記第二十五章
 二十九節 申命記第二十五章
 三十節 申命記第二十五章

わこれと興へ全く汝が我も命たすひし命令のでとせり我の汝の命令に背かすまたこれを忘れざるなり
 我のこの聖物を裏の中を食ひし事なくまた汚穢たる身をもて之を携へ出せし事なくまた死人のため
 にこれを贈りし事なきなり我はわが神エホバの言に聴きたがひて凡て汝が我も命したるごとく行へ
 り願くは汝の聖住所ある天より臨み爾の民イスラエルと汝の我らも興へし地を承継せしめられたる
 へ是は汝がわれらの先祖等も誓ひたまひし乳と蜜との流るる地なり○今日汝の神エホバがこれらの法度
 と律法を行ふことを汝に命じたも然らば汝心を盡し精神を盡してこれを守り居てかふべし今日なら
 ばエホバを認めて汝の神とせしむるに汝の法度と律法とを聞きしその聲に聴きたがひて
 言ひ今日エホバがまたその言してとて汝を認めてその實の民となり且汝にその諸の誠命を守れと言た
 へりエホバの汝の名譽と聲聞と榮耀とを去てその違れる諸の國の人にまじりて去らざらん汝はその神エ
 ホバの聖民なることぞ言たまひしごとくならん

第二十七節の言
 一 モーセイスラエルの長老等どもにありて民に命じて曰ふ我が今日かんに命する
 この誠命を汝ら全く守るべし 汝らヨルダンを渡りて汝の神エホバが汝に與へたまふ地にいる時と大なる
 石墩を立て石灰をその上に塗り 既に濟りて後この律法の諸の言語をその上に書すべし然すれバ汝の
 神エホバの汝にたまふ地なる乳と蜜の流るる國に汝に汝の先祖等の神エホバの汝に言たま
 ひしごとくならん 即ち汝らヨルダンを渡るにわが今日かんに命するの石をエバル山に
 立て有灰をその上に塗べし また其處に汝の神エホバのために石の壇一座を築くべし但し之を築くか
 鐵の器を用ふるべからず 汝爾石をもて汝の神エホバの壇を築さるるの上に汝の神エホバの燔祭を

申命記 第二十七章 六節
 申命記 第二十七章 七節
 申命記 第二十七章 八節
 申命記 第二十七章 九節
 申命記 第二十七章 十節
 申命記 第二十七章 十一節
 申命記 第二十七章 十二節
 申命記 第二十七章 十三節
 申命記 第二十七章 十四節
 申命記 第二十七章 十五節
 申命記 第二十七章 十六節
 申命記 第二十七章 十七節
 申命記 第二十七章 十八節
 申命記 第二十七章 十九節
 申命記 第二十七章 二十節
 申命記 第二十七章 二十一節
 申命記 第二十七章 二十二節
 申命記 第二十七章 二十三節
 申命記 第二十七章 二十四節
 申命記 第二十七章 二十五節
 申命記 第二十七章 二十六節
 申命記 第二十七章 二十七節
 申命記 第二十七章 二十八節
 申命記 第二十七章 二十九節
 申命記 第二十七章 三十節
 申命記 第二十七章 三十一節
 申命記 第二十七章 三十二節
 申命記 第二十七章 三十三節
 申命記 第二十七章 三十四節
 申命記 第二十七章 三十五節
 申命記 第二十七章 三十六節
 申命記 第二十七章 三十七節
 申命記 第二十七章 三十八節
 申命記 第二十七章 三十九節
 申命記 第二十七章 四十節
 申命記 第二十七章 四十一節
 申命記 第二十七章 四十二節
 申命記 第二十七章 四十三節
 申命記 第二十七章 四十四節
 申命記 第二十七章 四十五節
 申命記 第二十七章 四十六節
 申命記 第二十七章 四十七節
 申命記 第二十七章 四十八節
 申命記 第二十七章 四十九節
 申命記 第二十七章 五十節

獻べし 汝また彼處にて燔祭を獻げり物を食ひて汝の神エホバの前を樂ひべし 汝この律法の諸
 の言語をその石の上に明白に書すべし ○モーセまた祭司たるレビ人どもにイスラエルの全家も告
 ぐ今日汝に命する之が誠命と法度をかかんとし ○この日にモーセまた民に命じて言ふ 汝らがヨル
 ダンを渡りし後是以の者ガリツァ山にたつて民を祝すべし 即ちシメオン、レビ、ユダ、イサカ、ヨセフ
 およびベニヤミン、また是らの者ニバル山にたつて此語をすべし 即ちルベン、ガド、アセル、ゼブ
 ルン、ダン、およびナフタリ、レビ、大衛にてイスラエルの人々も告げて言べし 偶像の工人の手を作し
 てエホバの憎みたまふ者なれば凡てこれを刻みたまはざらん 遺りて密を安置く人の罰はるべし 且民も對
 てアミメトといふべし 汝の父母を輕んずる者の罰はるべし 民も對てアミメトといふべし 汝の
 地界を侵す者の罰はるべし 民も對てアミメトといふべし 盲者を去て路に迷はせむる者の罰はるべ
 し 民も對てアミメトといふべし 客旅孤子および寡婦の審判を枉るる者の罰はるべし 民も對てア
 ミメトといふべし 汝の父の妻と寝る者の罰はるべし 汝の父を辱しむる者の罰はるべし 民も對てアミメ
 トといふべし 凡て罰當とせる者の罰はるべし 民も對てアミメトといふべし 汝の父の女子また
 母の女子たる己の姉妹と寝る者の罰はるべし 民も對てアミメトといふべし 汝の妻の母と寝る者
 罰はるべし 民も對てアミメトといふべし 暗の中にうの郷を撃つ者も罰はるべし 民も對てアミ
 メトといふべし 報酬をうけて無辜者を殺す者の罰はるべし 民も對てアミメトといふべし
 六 此の律法の言を守りて行てざる者も罰はるべし 民も對てアミメトといふべし

申命記 第二十七章 六節
 申命記 第二十七章 七節
 申命記 第二十七章 八節
 申命記 第二十七章 九節
 申命記 第二十七章 十節
 申命記 第二十七章 十一節
 申命記 第二十七章 十二節
 申命記 第二十七章 十三節
 申命記 第二十七章 十四節
 申命記 第二十七章 十五節
 申命記 第二十七章 十六節
 申命記 第二十七章 十七節
 申命記 第二十七章 十八節
 申命記 第二十七章 十九節
 申命記 第二十七章 二十節
 申命記 第二十七章 二十一節
 申命記 第二十七章 二十二節
 申命記 第二十七章 二十三節
 申命記 第二十七章 二十四節
 申命記 第二十七章 二十五節
 申命記 第二十七章 二十六節
 申命記 第二十七章 二十七節
 申命記 第二十七章 二十八節
 申命記 第二十七章 二十九節
 申命記 第二十七章 三十節
 申命記 第二十七章 三十一節
 申命記 第二十七章 三十二節
 申命記 第二十七章 三十三節
 申命記 第二十七章 三十四節
 申命記 第二十七章 三十五節
 申命記 第二十七章 三十六節
 申命記 第二十七章 三十七節
 申命記 第二十七章 三十八節
 申命記 第二十七章 三十九節
 申命記 第二十七章 四十節
 申命記 第二十七章 四十一節
 申命記 第二十七章 四十二節
 申命記 第二十七章 四十三節
 申命記 第二十七章 四十四節
 申命記 第二十七章 四十五節
 申命記 第二十七章 四十六節
 申命記 第二十七章 四十七節
 申命記 第二十七章 四十八節
 申命記 第二十七章 四十九節
 申命記 第二十七章 五十節

もわらじ 汝の地の産物および汝の勞苦で得たる物ハ汝の識ざる民これを食べ九汝ハ只今も虐げられ
 窘められん而已 汝ハ何の目に見るどころの事によりて心狂ふに至らん 汝の膝と腰とお悪く
 て愈ざる瘡癩を生ぜしめて終わ足の腫より頭の上までおよびたまらん 汝は汝が立てたる王
 とを携へて汝も汝の先祖等も知ざりし國々に移し給へん 汝ハ其處にて木また石なる他の神々お事ふる
 わらん 汝ハ汝の汝を遣はしたまふ國々にて人の詭異む者となり 諛語となり 調子ならん 汝ハ多
 分の種を田野に携へ出すもの如きところハ少かるべし 蝗これを食ふべし 汝葡萄園を作り
 てこれお境もりの酒を飲んことを得ずきたるの果を飲むることを得じ 蟲これを食ふべし 汝の
 國に入り 遙く橄欖の樹ならん 然らば汝ハ其油を身に膏て之を得じ 其果も亦墮べし 汝男子女子を
 擧ぐるもこれを汝の有するところを得じ 塔樓へ入らば 汝の諸の樹および汝の地の産物之
 み亦燬てこれを取て食ふべし 汝の中間にある他國の人ハます 高くかりゆきて汝の上に出汝ハます
 す卑くかりゆかん 彼ハ汝を貸すことをせし 汝ハ彼に貸すことを得じ 彼ハ首とあり 汝ハ尾とならん 此の諸
 の災禍汝に臨み 汝を退ひ 汝に及びて ついに汝を滅ぼさん 是ハ汝の神エホバの言に聽したかは 亦其な
 ちに命じたまへる 誠命と法度を守らざるによるなり 是等の事ハ恒わかんが 汝の子孫の上によりて
 徴證となり 人を驚かす者となるべし 汝ハ萬の物の豐饒なる中にて心に歡び 樂みて 汝の神エホバに事
 へざるに因り 飢え渴き かつ裸になり 萬の物に乏しくして 汝に攻めたるをせし 汝の敵に
 事入るを至らん 彼鐵の斬を汝の頸につけて 遂に汝を屠らざらん 即ち 汝ハ遠方より地の極所よ
 り一の民を鷹の飛がてどく 汝汝を攻きたらむとめたるは 汝は汝の言語を聞き 汝の民の狂愚か

五三二五〇一利三六
 五三二五〇二利三六
 五三二五〇三利三六
 五三二五〇四利三六
 五三二五〇五利三六
 五三二五〇六利三六
 五三二五〇七利三六
 五三二五〇八利三六
 五三二五〇九利三六
 五三二五〇一〇利三六
 五三二五〇一一利三六
 五三二五〇一二利三六
 五三二五〇一三利三六
 五三二五〇一四利三六
 五三二五〇一五利三六
 五三二五〇一六利三六
 五三二五〇一七利三六
 五三二五〇一八利三六
 五三二五〇一九利三六
 五三二五〇二〇利三六
 五三二五〇二一利三六
 五三二五〇二二利三六
 五三二五〇二三利三六
 五三二五〇二四利三六
 五三二五〇二五利三六
 五三二五〇二六利三六
 五三二五〇二七利三六
 五三二五〇二八利三六
 五三二五〇二九利三六
 五三二五〇三〇利三六
 五三二五〇三一利三六
 五三二五〇三二利三六
 五三二五〇三三利三六
 五三二五〇三四利三六
 五三二五〇三五利三六
 五三二五〇三六利三六
 五三二五〇三七利三六
 五三二五〇三八利三六
 五三二五〇三九利三六
 五三二五〇四〇利三六
 五三二五〇四一利三六
 五三二五〇四二利三六
 五三二五〇四三利三六
 五三二五〇四四利三六
 五三二五〇四五利三六
 五三二五〇四六利三六
 五三二五〇四七利三六
 五三二五〇四八利三六
 五三二五〇四九利三六
 五三二五〇五〇利三六
 五三二五〇五一利三六
 五三二五〇五二利三六
 五三二五〇五三利三六
 五三二五〇五四利三六
 五三二五〇五五利三六
 五三二五〇五六利三六
 五三二五〇五七利三六
 五三二五〇五八利三六
 五三二五〇五九利三六
 五三二五〇六〇利三六
 五三二五〇六一利三六
 五三二五〇六二利三六
 五三二五〇六三利三六
 五三二五〇六四利三六
 五三二五〇六五利三六
 五三二五〇六六利三六
 五三二五〇六七利三六
 五三二五〇六八利三六
 五三二五〇六九利三六
 五三二五〇七〇利三六
 五三二五〇七一利三六
 五三二五〇七二利三六
 五三二五〇七三利三六
 五三二五〇七四利三六
 五三二五〇七五利三六
 五三二五〇七六利三六
 五三二五〇七七利三六
 五三二五〇七八利三六
 五三二五〇七九利三六
 五三二五〇八〇利三六
 五三二五〇八一利三六
 五三二五〇八二利三六
 五三二五〇八三利三六
 五三二五〇八四利三六
 五三二五〇八五利三六
 五三二五〇八六利三六
 五三二五〇八七利三六
 五三二五〇八八利三六
 五三二五〇八九利三六
 五三二五〇九〇利三六
 五三二五〇九一利三六
 五三二五〇九二利三六
 五三二五〇九三利三六
 五三二五〇九四利三六
 五三二五〇九五利三六
 五三二五〇九六利三六
 五三二五〇九七利三六
 五三二五〇九八利三六
 五三二五〇九九利三六
 五三二五〇一〇〇利三六

る民にして 老たる者の身を願ふ 汝ハ幼稚者を憐れ 汝の地を汝の畜の産を食ひて 汝を屠らば 汝
 物をも 油をも 牛の産をも 羊の産をも 汝のために 遺さずして 終わ全く 汝を滅ぼさん 汝の民ハ汝の
 全國おひて 汝の一切の邑々を攻圍み 遂にその故が 頼む堅固ある 高き石垣をてどく 打押し 汝の神エ
 ホバの汝にたまへる 國の中なる 一切の邑々をてどく 攻圍むべし 汝ハ敵に圍まれ 烈しく 攻めやま
 る によりて 終わその 汝の神エホバ 小賜される 汝の胎の産なる 男子女子の肉を 食ふにいたらん 汝らの
 中 柔生育にして 軟弱なる 男すも その兄弟と 女の遺れる 子女とを 疾視 自己の 食ふるの
 子等の 肉をて 中の 誰にも 與ふることを 好まざらん 是ハ 汝の敵の 一切の 邑々を 圍み 烈しく 汝を 攻め
 ざして 何物をも 其人に 遺さざれば なり 又 汝らの 中の 柔生育おして 纏弱なる 婦女す 亦は ちの 柔生育に
 して 纏弱なる ため 足に 塵を 土か つくることを 取らせざる 者すら も 汝の 懐の 夫と その 男子と の 女
 子とを 疾視 己の 足の 間より 出る 胞衣と 己の 産と の 子を取て 密おこれを食べん 是ハ 汝の 敵ならん の
 邑々を 圍み 烈しく これを 攻め 汝の 何物をも 得ざれば なり 汝も 此の 書に 記したる 汝の 律法
 の 一切の 言を守りて 行はず 汝の 神エホバと 云々ある 畏るべき 名を 畏れ 汝ハ 汝の 災禍と 汝の子孫
 の 災禍を 烈しく したまへん 其災禍ハ 大にして 久しく その 疾病ハ 重く して 久し かるべし 汝ハ 汝の
 體れし 疾病なる エホバの 諸の 疾病を 持きたりて 汝の 身に 纏ひ 附志めたまへん 又 汝 此律法の 書に 載
 る 諸の 疾病と 諸の 災害を 汝の 滅ぶるまで エホバの 汝に 降したまはらん 汝らの 星の ごとく 汝に 衆多かりし
 も 汝の 神エホバの 言に 聽きたがはば 汝は 汝の 災禍に 降りて 残り 汝を 打たざるべし エホバの 言に 汝らに 遺
 を 棄く すること を 喜び して 今之 エホバの 汝らに 滅ぼし 絶すことを 喜び 汝らに 其往て 獲て ころ

五三二四七〇利三六
 五三二四七一利三六
 五三二四七二利三六
 五三二四七三利三六
 五三二四七四利三六
 五三二四七五利三六
 五三二四七六利三六
 五三二四七七利三六
 五三二四七八利三六
 五三二四七九利三六
 五三二四八〇利三六
 五三二四八一利三六
 五三二四八二利三六
 五三二四八三利三六
 五三二四八四利三六
 五三二四八五利三六
 五三二四八六利三六
 五三二四八七利三六
 五三二四八八利三六
 五三二四八九利三六
 五三二四九〇利三六
 五三二四九一利三六
 五三二四九二利三六
 五三二四九三利三六
 五三二四九四利三六
 五三二四九五利三六
 五三二四九六利三六
 五三二四九七利三六
 五三二四九八利三六
 五三二四九九利三六
 五三二五〇〇利三六
 五三二五〇〇一利三六
 五三二五〇〇二利三六
 五三二五〇〇三利三六
 五三二五〇〇四利三六
 五三二五〇〇五利三六
 五三二五〇〇六利三六
 五三二五〇〇七利三六
 五三二五〇〇八利三六
 五三二五〇〇九利三六
 五三二五〇一〇利三六
 五三二五〇一一利三六
 五三二五〇一二利三六
 五三二五〇一三利三六
 五三二五〇一四利三六
 五三二五〇一五利三六
 五三二五〇一六利三六
 五三二五〇一七利三六
 五三二五〇一八利三六
 五三二五〇一九利三六
 五三二五〇二〇利三六
 五三二五〇二一利三六
 五三二五〇二二利三六
 五三二五〇二三利三六
 五三二五〇二四利三六
 五三二五〇二五利三六
 五三二五〇二六利三六
 五三二五〇二七利三六
 五三二五〇二八利三六
 五三二五〇二九利三六
 五三二五〇三〇利三六
 五三二五〇三一利三六
 五三二五〇三二利三六
 五三二五〇三三利三六
 五三二五〇三四利三六
 五三二五〇三五利三六
 五三二五〇三六利三六
 五三二五〇三七利三六
 五三二五〇三八利三六
 五三二五〇三九利三六
 五三二五〇四〇利三六
 五三二五〇四一利三六
 五三二五〇四二利三六
 五三二五〇四三利三六
 五三二五〇四四利三六
 五三二五〇四五利三六
 五三二五〇四六利三六
 五三二五〇四七利三六
 五三二五〇四八利三六
 五三二五〇四九利三六
 五三二五〇五〇利三六
 五三二五〇五一利三六
 五三二五〇五二利三六
 五三二五〇五三利三六
 五三二五〇五四利三六
 五三二五〇五五利三六
 五三二五〇五六利三六
 五三二五〇五七利三六
 五三二五〇五八利三六
 五三二五〇五九利三六
 五三二五〇六〇利三六
 五三二五〇六一利三六
 五三二五〇六二利三六
 五三二五〇六三利三六
 五三二五〇六四利三六
 五三二五〇六五利三六
 五三二五〇六六利三六
 五三二五〇六七利三六
 五三二五〇六八利三六
 五三二五〇六九利三六
 五三二五〇七〇利三六
 五三二五〇七一利三六
 五三二五〇七二利三六
 五三二五〇七三利三六
 五三二五〇七四利三六
 五三二五〇七五利三六
 五三二五〇七六利三六
 五三二五〇七七利三六
 五三二五〇七八利三六
 五三二五〇七九利三六
 五三二五〇八〇利三六
 五三二五〇八一利三六
 五三二五〇八二利三六
 五三二五〇八三利三六
 五三二五〇八四利三六
 五三二五〇八五利三六
 五三二五〇八六利三六
 五三二五〇八七利三六
 五三二五〇八八利三六
 五三二五〇八九利三六
 五三二五〇九〇利三六
 五三二五〇九一利三六
 五三二五〇九二利三六
 五三二五〇九三利三六
 五三二五〇九四利三六
 五三二五〇九五利三六
 五三二五〇九六利三六
 五三二五〇九七利三六
 五三二五〇九八利三六
 五三二五〇九九利三六
 五三二五〇一〇〇利三六